

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.83

日時	2014年3月28日
行脚先	円清寺
住所	朝倉市杷木志波(筑前国)
行事名	

特徴

黒田藩草創の重臣栗山備後利安[1]が主君黒田如水の死亡した慶長9年1604 その冥福を祈るために建立した寺であり如水の法号龍光院殿如水円清大居士からとって龍光山円清寺と名付けられたものです。この寺には黒田如水・長政・備後の位牌が安置してあり如水・長政・備後の画像も寺宝として保存されています。

銅鐘(国指定重要文化財)大正元年指定

この銅鐘は、黒田長政が寄贈したもので 慶長5年1600の乱に如水が日田郡渡り村、吹揚山長福寺より持ち帰り福岡に置かれていたもので 我が国に伝わった朝鮮鐘では最古の銘を有するものと同時代のものであり 見事で年代は新羅末期または高句麗初期[4]とされています。

高さ66.9センチ、笠形39.9センチ、口径49センチ。撞座の両方に天人飛翔の図がある。昔は干ばつが続くとこの鐘を持ち出して筑後川につける風習があり雨乞いのために何度も筑後川に沈められています。

黒田官兵衛との関わり

黒田二十四騎の1人で、麻氏良城(までらじょう)城主だった黒田藩家老・栗山備後利安が、官兵衛の菩提を弔うために建立した寺。寺には官兵衛、長政、栗山利安の肖像画がある。円清寺にある銅鐘(国指定重要文化財)は日本にある朝鮮鐘では最古といわれるもので、官兵衛が慶長5年(1600)、九州各地で戦っていたときに日田郡渡り村の吹揚山長福寺から福岡に持ち帰り保管されていた鐘が円清寺建立時に長政から寄贈されたといわれている。

記録

